

## 龍ヶ崎のお宝の木探訪マップ 4

### 【馴染・北竜台地区】



- |              |             |          |
|--------------|-------------|----------|
| ②4 ヤマザクラ     | ②5 ムクノキ     | ②6 イチョウ  |
| ②7 ケヤキ       | ②8 ケヤキ・スタジイ | ②9 ヤブツバキ |
| ③0 ツバキ (紅唐子) | ③1 クスノキ     | ③2 スタジイ  |
| ③3 ソメイヨシノ    | ③4 アカガシ     | ③5 スギ    |

# ヤマザクラ

【バラ科サクラ属】

データ

探訪マップ【馴染地区】④

樹高/ 15m 幹周り/ 200cm

推定樹齢/ 150年

場所/ 星宮神社(若柴町)



## ■星宮神社の山桜（やまざくら）■

星宮神社は、若柴町の北西にあり、入口に縁起の書かれた板札があります。縁起によりますと、神社の名前は北斗七星や北極星が由来とのことです。

平貞盛が星大明神の前を馬に乗って通った時、その馬が神社の前にあった石を見て動かなくなり、不思議に思った貞盛が辺りを見廻すと、祠があり、近づいてみると信仰する妙見様であることに気づき、参拝すると馬が動いたという「駒止の石」があります。

後に将門追討の祈願をし、成就したので社殿を寄進したとの伝えのある「星の宮」は、かつてヤマザクラの名所として4月13日の大祭には見事な花を楽しませてくれましたが、現在は数本を数えるほどです。

ヤマザクラの花が開花する4月中旬は、春の農作業の始まりで苗代づくりの目印にしたともいわれています。



# ムクノキ

【アサ科ムクノキ属】

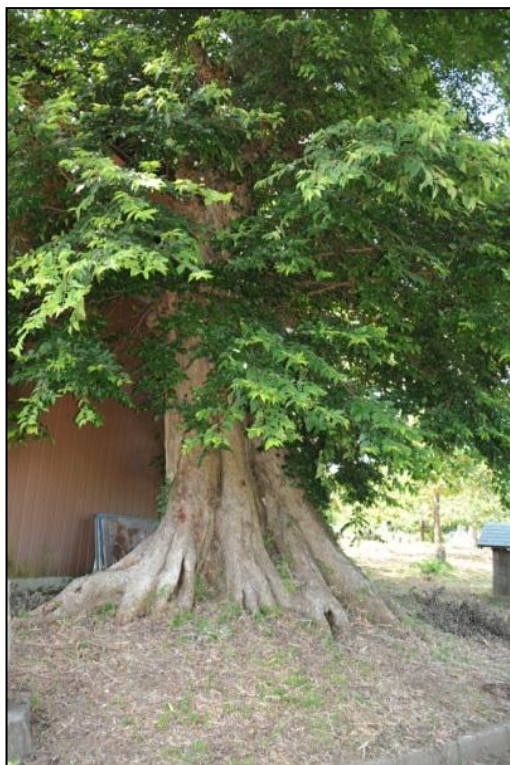
デ  
ー  
タ

探訪マップ【馴染地区】⑫

樹高/ 20m 幹周り/ 520cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 金龍寺(若菜町)



## ■名優の存在、金龍寺の棕（むく）一対■

市の北西部に位置する金龍寺。曹洞宗開祖の道元が中国から持ち帰った国指定の重要文化財「絹本着色十六羅漢像」（現在は県立歴史館に寄託）や「牛になった小坊主」、「わら干し観音」などの伝説がある古刹です。境内裏手の木立の中には南北朝時代の武将新田義貞の墓もあります。この寺の入口で迎えるのはムクノキの巨樹です。巨獣が大地を闊歩するような根張りの成木と枯死の気配が漂う老樹の対照的な二本です。

名優は演じることにより超越し、そこにいる。確かな輝きと絶妙なバランスの中で、重厚でしかも洒脱な在感を放つといわれます。

朽ちた樹容をさらけ出しながらも残る生命をたぎらせるこの巨樹こそ名優といえます。

ムクノキの葉は、昔は器物の表面研磨剤として使われていました。



# イチョウ

【イチョウ科イチョウ属】

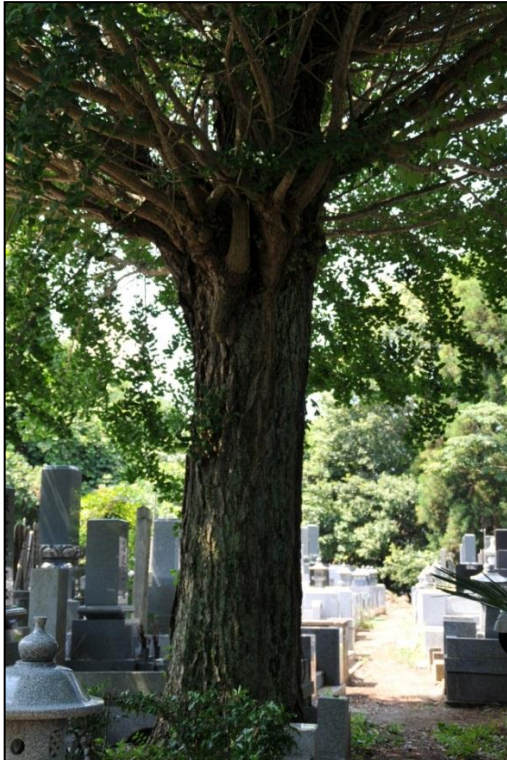
データ

探訪マップ【馴染地区】②⑥

樹高 / 20m 幹周り / 280cm

推定樹齢 / 300年

場所 / 金龍寺(若柴町)



## ■金龍寺の大銀杏（おおいちょう）■

金龍寺でその昔「立派な若武者が涙ながらに感慨深げに大イチョウを見上げていた」といいます。「その若武者は戦に敗れ、母と共に当地まで来ました。その折り、この大イチョウの実を食べ、飢えと疲れをいやし、元気を取り戻し、目的地まで辿り着いた」との言い伝えがあります。

イチョウは大気汚染に強く丈夫なので、街路樹としては一番よく目立ちます。秋には鮮やかな黄葉で、メタセコイヤやソテツと同じく生きた化石です。材は天井板や床板、碁盤、算盤玉などに役立っています。

# ケヤキ

【ニレ科ケヤキ属】

デ  
ー  
タ

探訪マップ【馴染地区】⑦

樹高/ 20m 幹周り/ 330cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 御手洗の池(若柴町)



## ■御手洗（みたらし）の池の樺（けやき）■

旧水戸街道若柴宿から程近く、深閑とした鬮（くじ）神社の森を過ぎた雑木林の中段に御手洗の池と霊木のケヤキがあります。地元の方のご尽力による「案内板」が目印です。

北斗七星、北極星が由来とされる星宮神社。かつて参詣者がこの池で身を清め、丘陵地を切り開き造られたゆるやかな坂道を上り参拝しました。神社のお使いであるウナギを誤って捕まえたときはこの池に放したという伝承もあり、今でもウナギを食べない住民も多いそうです。

江戸の千住から数えて八番目の宿場、若柴宿として栄えた時代、旅の無事を祈願する人々が天空の北斗七星を仰ぎ見、参詣者がお社を目指す・・・そんないにしえの時代がしのべられます。現在の池は、底の部分が湿る程度のもので往時の面影はなく、ケヤキの巨木のみがその名残を今に伝えています。



# ケヤキ・スダジイ

【ニレ科ケヤキ属】【ブナ科シイ属】

デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【馴染地区】⑧

(ケヤキ) 樹高/ 30m 幹周り/ 400cm  
推定樹齢/ 300年

(スダジイ) 樹高/ 30m 幹周り/ 460cm  
推定樹齢/ 300年

場所/ くじ神社(若柴町)



【ケヤキ】

【スダジイ】

## ■ 鬮（くじ）神社、一対の大樹 ■

くじ神社の鳥居のようにケヤキとスダジイの巨木が一対になってそびえており、一方のケヤキには宿り木（ヤドリギ・右の写真）が多数寄生しているのが見られます。

また、一対の巨木の間をくぐるように階段があり、その奥に小さな社が見えます。そこを登っていくとしゃもじがたくさん下がった社が鬮神社です。

ヤドリギはケヤキなどの落葉広葉樹の枝に寄生する常緑の低木で、枝は二股に分かれながら枝先に厚い革質の葉を二枚ずつ対生します。

キリスト教国では「神聖な木」としてクリスマスにはなくてはならないものとされている地方もあります。



【宿り木】



# ヤブツバキ

【ツバキ科ツバキ属】

デ  
ー  
タ

探訪マップ【馴染地区】⑳

■ ヤブツバキ群  
場所/ ねがらの道(若柴町)



## ■旧若柴宿、ねがら道（つばきの小径）の藪椿（やぶつばき）■

若柴の台地と台の下と呼ばれる低地をつなぐ斜面林があり、その台地下の「ねがら道」沿いにヤブツバキの群生地があります。

ヤブツバキの読み方の由来には、光沢がある意の古語、艶葉木（つやばき）、強い葉っぱの意味から強葉木、落ちた花が刀の鏢（つば）に似ている、朝鮮名の冬柏（つんぱく）の名などの諸説あります。周辺には稲作隆盛期の面影を残す種井（たねい）や大坂、延命寺坂、会所坂、足袋屋坂、鍛冶屋坂など、かつて旧水戸街道の要衝として栄えた若柴宿をほうふつさせる坂が点在しています。

現在、ヤブツバキの咲く森を守り、史跡群を遺産として残すために地元の方々による懸命な努力が払われています。

※ 種井

ねがら道に沿って現在、種井が3ヶ所残っています。かつては種井の湧水で種もみを浸したり、手足や農機具の洗い場として使われていました。



## ツバキ(紅唐子)

【ツバキ科ツバキ属】

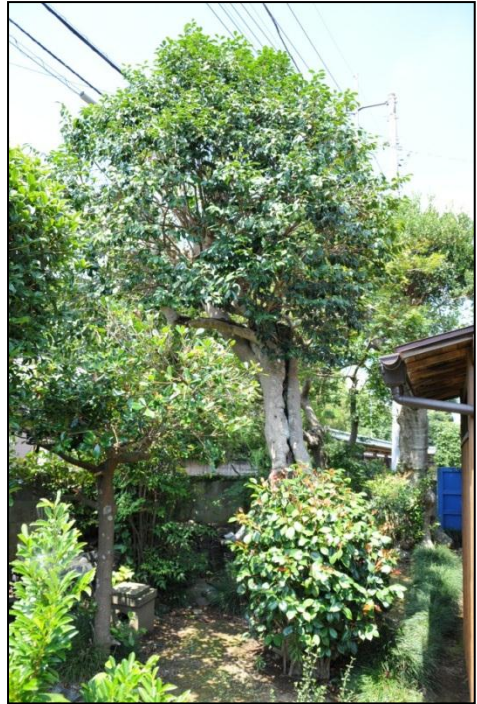
データ

探訪マップ【馴染地区】⑩

樹高/ 7m 幹周り/ 110cm

推定樹齢/ 250年

場所/ 若柴町民家(若柴町)



## ■旧若柴宿の古椿、紅唐子（べにからこ）■

旧若柴宿（現若柴町）は、江戸時代には水戸街道八番目の宿場として、多くの旅人が往来し、江戸と当地を結ぶ要路でした。明治19年の大火で若柴宿の大半が焼失しましたが、現在も立派な門構えの旧家が多く見られ、当時の巨木・名木も多く、かつての名残が随所に伺えます。

この旧若柴宿の中程の民家に、椿の古い品種紅唐子が春の訪れを告げます。この紅唐子は樹齢が250年以上と推定されます。明治の大火の傷跡を残してはいますが、すこぶる元気で春には沢山の花を咲かせ、変り行く若柴宿を見守り続けています。

紅唐子は、1700年頃から関西地方を中心に栽培が始まり、その気品の良さはいまだに人気の的です。

また、このお宅の奥には貴婦人を想わせるようなみごとな樹形のケヤキもあります。





## クスノキ

【クスノキ科クスノキ属】

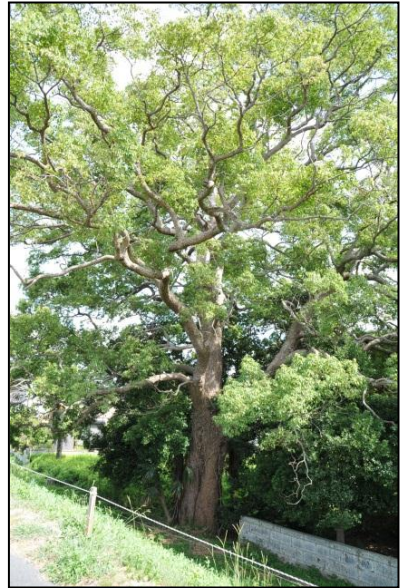
デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【馴染地区】③

樹高/ 30m 幹周り/ 540cm

推定樹齢/ 350年

場所/ 小貝川沿い民地(馴染町)



## ■小貝川沿い、樟（くすのき）の横綱■

この大クスノキは「暴れ川」として知られる小貝川の堤防の下にあり、龍ヶ崎市内では横綱級の巨樹です。推定樹齢 350 年を生き抜き、宮和田の渡して水戸街道の旅人達が若柴宿に向かう目印にもなっていたのでしょう。

また、小貝川と鬼怒川の分流や新八間川の普請、牛久沼配水場の建設も確かに見つめていたのです。近くを通る常磐線鉄橋際には昭和 16 年の洪水による堤防決壊を刻む石碑「決壊口の跡」があります。ここから旧水戸街道に沿って若柴宿までには小さな祠や道標、神社、平国香の供養塔などいにしえの道が続きます。

昭和 28 年（1953 年）、近くの樋門工事中に古墳時代の遺物、全長 6m を超える原形をとどめた丸木舟が発見され、現在は龍ヶ崎市歴史民俗資料館で見ることができます。

# スタジイ

【ブナ科シイ属】

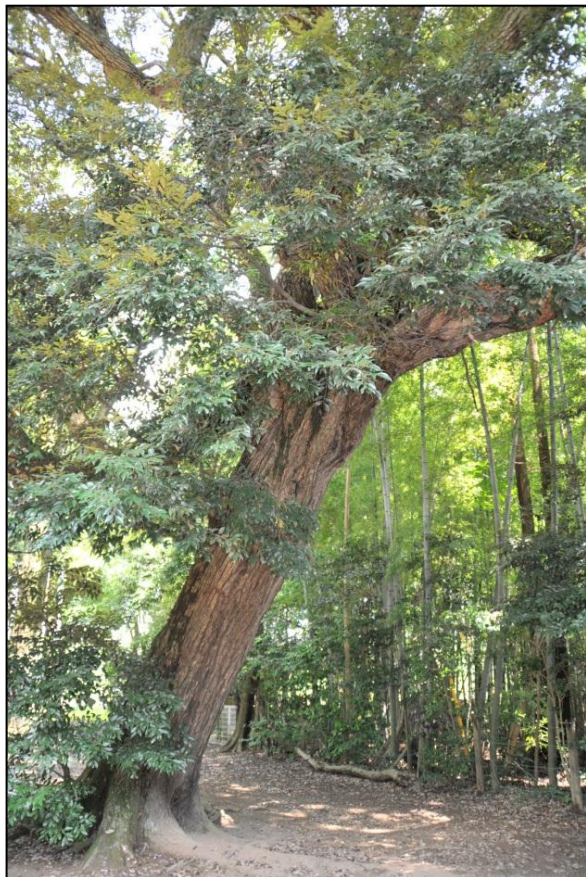
データ

探訪マップ【馴染地区】③

樹高/ 25m 幹周り/ 340cm

推定樹齢/ 250年

場所/ 女化神社(馴染町)



## ■きつね伝説の女化稲荷の森■

龍ヶ崎ニュータウンの北竜台地区を北東に3kmほど進むと、龍ヶ崎市の飛地馴染町に女化稲荷と呼ばれていた女化神社があります。建立年間(1190~1198年)に創立されたといわれ、農業神として信仰され、五穀豊穰・家内安全祈願に多くの信者が訪れます。

ここには日本昔話で有名な「狐の恩返し」伝説が残され、境内には狛犬の代わりに3匹の子狐を抱えた親子の狐像がたて祀られています。

また、境内は社を中心として鬱蒼とした森になっており、中でもイチョウ・エノキ・スタジイの3本の巨樹が目を引きまます。

スタジイは暖地、特に海岸付近に多く、鬱蒼とした巨木になります。香りの強い小花を雌雄別々に穂状花序につけ、また、椎茸栽培の原木として多く使われます。

## ソメイヨシノ

【バラ科サクラ属】

デ  
ー  
タ

## 探訪マップ【馴染地区】③

樹高 / 15m 幹周り / 230cm

推定樹齢 / 70年

場所 / 愛国学園大学付属龍ヶ崎高等学校  
(若柴町)

## ■お花見の名所、愛国学園の染井吉野（そめいよしの）■

サクラは日本特有の観賞花木で、国民の気性を表すとともに最も愛されている名花と言えます。また、日本の国花でもあることから外国との親善に「サクラ」を贈った歴史もあります。「日本は這入口からサクラかな」と一茶の句にあるように、日本には数多くの種類があり、ソメイヨシノのほかにヤマザクラ、サトザクラ、シダレザクラ、ヒガンザクラ等が各地で観光名所としての賑わいを見せています。

サクラ類中最も広く普及しているソメイヨシノは、江戸末期から明治初期に、江戸の染井村（現在の東京都豊島区駒込）から出現したものとされています。ちなみに、昔は佐久良あるいは作楽と書き、桜とは書かなかったそうです。

愛国学園のサクラは市立旧馴染中学校時代のものが現在に引継がれ、手入れも行き届き立派に育っています。ほとんどがソメイヨシノで、サクラが立ち並ぶ姿は見事です。中には推定樹齢70年に及ぶものもあり、満開の時期には花の重みで枝先が地面に触れるほどの姿は一見の価値があります。



# アカガシ

【ブナ科コナラ属】

デ  
ー  
タ

探訪マップ【馴染地区】③④

樹高/ 15m 幹周り/ 350cm

推定樹齢/ 300年

場所/ 鹿嶋神社(南中島町)



## ■竹がつかぬく、南中島町、鹿嶋神社の赤檜（あかがし）■

閑静な住宅街に囲まれた鹿嶋神社。鳥居をくぐるとすぐに巨木たちが視界に入ります。本殿奥に回ると竹林を背に、木漏れ日の中に荘厳な雰囲気たたえたアカガシが迎えます。

境内にある由緒沿革では、天正3年（1575年）9月、鹿嶋の大神を崇敬し、その分霊を奉齋創立。そして明治2年（1869年）に再建し、その壁画は「江戸の彫刻師後藤家一派の作といわれ、その彫刻は精緻華美で、壁画全体を一大パノラマ化する程の大胆な構図になっている。作品の中に後藤久米五郎作之彫工時三郎なるものがある。」と記されています。（後藤一派とは仏師運慶を祖とする彫り物師）

アカガシの樹形は大きく枝を広げています。樹皮はうろこ状にはがれ褐色や橙色の特徴的なまだら模様になります。材は建築材や木刀、道具の柄などの器具材、薪炭材に利用されています。

## スギ

【スギ科スギ属】

データ

## 探訪マップ【馴染地区】③⑤

樹高/ 35m 幹周り/ 390cm

推定樹齢/ 400年

場所/ 日枝神社(馴染町)



## ■馴染、日枝神社の大杉■

日枝神社は龍ヶ崎市民活動センター西隣の森の中に鎮座しています。

由緒は、延喜三年（903年）近江国志賀郡坂本村山王大権現の分霊を勧請し、馴染地区の鎮守として祀り、明治二年（1869年）山王権現の尊称を日枝神社と改称しました。

スギは常緑高木で日本特産の有用樹種。本州北端から屋久島まで分布し、幹は直立し、大きなものでは直径5m、高さ50mに達するものもあり、材はきめがまっすぐで柔らかく建築材の他、脂気に富み、樽、桶、下駄などに幅広く利用されています。

この深閑とした森には、樹高30mを超える大スギが30数本、その直線美を競うように姿を見せてくれます。また、境内の社を取り囲むように50数本のスダシイの巨木が大きな森をつくり、その中にモミやシラカシなどの貴重な大木が生い茂り神社の尊厳さが感じられます。